

国際青年

2023年(令和5年)5月1日発行

第52号

埼玉国際青年を育てる会・会報

Saitama Association for International Youth Volunteers

現地レポート

■中村由佳(さいたま市)

2022年度3次隊 ジブチ JV 理科教育

ジブチに派遣されて

ジブチに派遣され、教員採用試験の模擬授業を見学しました。視学官と教育技官、他の中学校の先生と私の4名で授業を見学しました。中学校1年生(こちらでは6年生)の授業で、生物の分類の授業でした。活動の時間では、生徒がタブレット端末を使って作業をしており、使い慣れている様子に驚きました。



また、私の住んでいるアパートの管理人さんとお友達やアパートの清掃員さんと一緒にイフタルを食べました。ラマダン中のため、太陽が出ている時間帯は断食を行っています。日没後に最初にとる食事のことをイフタルと言います。普段は、みなさんそれぞれ家で食事をとっているようですが、ラマダン中は大勢で一緒にイフタルを食べることがよいことのように、私も招待してもらいました。



はじめに、デザートというドライフルーツを食べ、その後、水を飲み、サンブサ、バギアというジブチ料理を食べるのが習慣になっているようです。

みなさん温かく迎え入れてくれてうれしかったです。

■佐藤 綾(戸田市)

2021年度7次隊 カンボジア JV 理科教育

わたしの理科教育

私の活動先はカンボジアの首都プノンペンからバスで3時間の場所、コンボンチャム州にある小学校教員養成校です。全国に16校ある2年制の小学校教員養成校の1つです。



(顕微鏡を使って、植物の細胞と動物の細胞を観察)

- ・現地レポート 1・2
- ・2022年度育てる会活動報告 2・3

- ・埼玉県人会善行賞受賞報告 3
- ・事務局だより 4

同州から生徒が集まり、小学校教員になるための知識や指導法、児童心理学等を身に付けた修了生は小学校教員となります。

ここで私は現地の理科教員と共に、学生に実験・観察を積極的に取入れた授業を行っています。



(地球儀とボール、懐中電灯を使って月の満ち欠けの授業を行いました)

カンボジアの公立小学校では、理科の授業で実験・観察を取入れた授業がほとんど行われていません。そのために、養成校の学生の実験経験を増やし、慣れてもらうことが大切です。

学生が小学校教員になった時に、理科の授業で実験・観察を取入れやすくなるよう、「現地で手に入るもので、実験が行えること」を意識して活動に取り組んでいます。

● 2022年度 育てる会活動報告 ●

★ JICA 青年海外協力隊員 オンライン帰国報告会

- ・開催日時：2023年2月24日（金）
- ・発表形式：オンライン報告会形式
各隊員20分（質疑を含む）
- ・埼玉県の帰国報告者

■ 平 彩菜（川口市）

2021年度9次隊・ヨルダン・日本語教育

出発時「行ってらっしゃい」と隊員を温かく送り出した団体・支援者に対して活動報告をオンライン形式で行いました。このような状況の中でも帰国隊員とのつながりを維持・強化、さらに隊員の社会還元の促進を目指すことが重要です。

平さんは、コロナ禍で一時帰国を余儀なくされ、再赴任して活動を続けられました。

現地に溶け込み、必死に取り組む様子が伝わってきました。

★ 2022（令和4）年度壮行会

埼玉国際青年を育てる会及び青年海外協力隊埼玉県OB会主催の「JICA 海外協力隊2022年度」壮行会は、コロナ感染症の影響でかなり制限を受けての開催となりました。

海外協力隊埼玉県OB会会長榎本氏の司会進行で、瀬島副会長、山田常任理事や埼玉県民生活部国際課、JICA 東京、一般社団法人協力隊を育てる会をはじめ皆様の励ましの言葉を受けて、各自が赴任地に着任する思いを高める良い機会になりました。

隊員たちのご健康とご活躍を期待しています。

■ 1次隊壮行会

2022年7月12日（火） 11時15分～12時15分
埼玉県民健康センター 3階 中会議室



・主催者挨拶

埼玉国際青年を育てる会 副会長 瀬島 孟

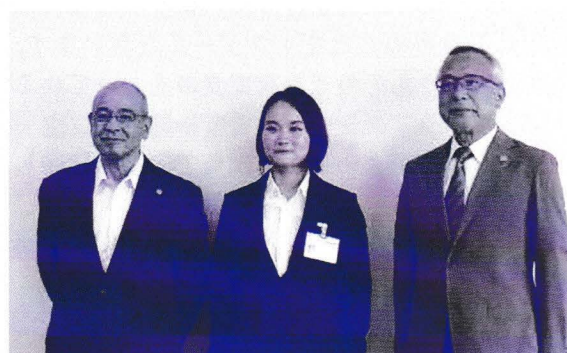
・来賓挨拶

埼玉県民生活部国際課 福田 笙子 様
JICA 東京 田中 泉 様

派遣国は、タイ（障がい児・者支援）、エジプト（環境教育）、ガーナ（小学校教育）、ベトナム（日本語教育、作業療法士）、カメルーン（自動車整備）、マダガスカル（サッカー）、チリ（環境教育）、グアテマラ（コミュニティ開発）です。

■ 2次隊壮行会

2022年9月12日（月） 11時15分～12時30分
埼玉会館 6A 会議室



・主催者挨拶

埼玉国際青年を育てる会 副会長 瀬島 孟

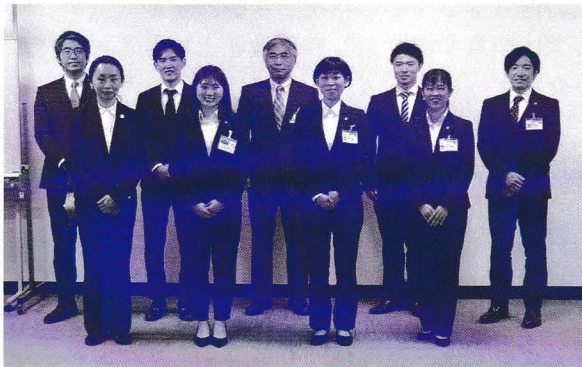
・来賓挨拶

埼玉県県民生活部国際課 佐藤 裕樹 様
JICA 東京 宮原 千絵 様

派遣国は、パラオ（小学校教員）、セントルシア（環境教育）、マダガスカル（体育）、グアテマラ（数学教育）で、4名の隊員が出発しました。

■ 3次隊壮行会

2022年12月19日（月） 15時40分～16時30分
埼玉会館 6B 会議室



・主催者挨拶

埼玉国際青年を育てる会 常任理事 山田 洋

・来賓挨拶

埼玉県県民生活部国際課 中島 智孝 様
JICA 東京 和田 康彦 様
（来賓の中島智孝様は欠席でした）

派遣国は、ボツワナ（柔道）、チュニジア（作業療法士）、ガーナ（コンピューター技師）、ケニア（青少年活動）、ソロモン（理学療法士）、ジブチ（理科教育）、メキシコ（経営管理）、ブラジル（日本語教育）、ソロモン（小学校教育）です。

■ 4次隊壮行会

2023年3月14日（火） 12時～13時
埼玉会館 6D 会議室



・主催者挨拶

埼玉国際青年を育てる会 副会長 瀬島 孟

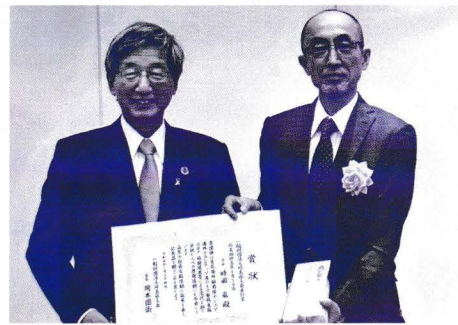
・来賓挨拶

埼玉県県民生活部国際課 佐藤 裕樹 様
JICA 東京 奥村 真紀子 様

一般社団法人協力隊を育てる会 干川 美奈子 様
派遣国は、マラウイ（病院運営管理）、メキシコ（ソーシャルワーカー）、バヌアツ（卓球）、ガーナ（視聴覚教育）です。

埼玉県人会善行賞受賞報告

副会長 榎本 敬



当会は第15回埼玉県人会善行賞を受賞しました。2023年1月24日に時田会長の代理で授賞式に出席しましたので、その報告をいたします。

埼玉県人会は「埼玉県人の知徳を進め人格を高めて、社会文化の向上発展に寄与する」（HPからの引用）ことを目的として活動している団体で、初代会長は渋沢栄一が務め、会員は埼玉県出身の企業経営者の皆さんなどで構成されています。この埼玉県人会から今回は、埼玉新聞社社会福祉事業団、吉見町在住の大澤匡子様、そして私たち埼玉国際青年を育てる会に善行賞が与えられました。

当会が受賞した理由は、長年にわたって国際協力を志す若者を支援してきた活動が評価されたことです。私たちの会の活動を振り返ると、1995年の設立当時から30年近く青年海外協力隊を中心としたボランティア活動を支援してきました。隊員が派遣国に出発する前に壮行会を開催し激励するとともに、帰国した際は報告会を開催してきました。隊員皆さんの壮行会での抱負や、帰国後の貴重な体験談は私たちに多くの感動を与えてくれます。これらが原動力となり、長く会の活動を続けることができました。

この埼玉県人会善行賞の受賞を励みに、今後も埼玉県から旅立つ国際青年を支援していきたいと思っております。会員の皆様におかれましては、引き続き会の活動への御参加、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

■事務局だより

「コロナ禍における会員の皆様のご支援に感謝」
皆様のご支援のおかげにて、広報誌「国際青年」の発行及びホームページの維持運営等の広報活動が可能となっています。感謝申し上げます。

さて、2023年のある日の日本経済新聞の交遊抄に次のような文章がありました。

「人の一生は皆のために何をしたかで決まる。君は日本のために何をできたか。……彼の問いかけはやはり従前と同じである。ただその真っすぐな問いは、互いに年を重ねただけ、ずっと重みを増して聞こえた」

コロナ禍以前のできごとですが、事務局の私に、会員の方から退会についての電話がありました。次のようなお話でした。「これまで会費を納めて支援してきましたが、来年90歳になるので、身の回りの整理をはじめましたので退会したいと思います」

そこで、永い間のご支援に感謝するため、会長名の御礼状をお送りいたしました。

当会は平成7年の設立ですので、令和5年は28年目を迎えます。設立当時の会員の方も何人もおります。大変ありがたいことです。

コロナ禍3年が過ぎ、当会の活動も少しずつ正

常化に向かっています。

その新型コロナウイルスですが、いわゆる感染症法上の扱いを季節性インフルエンザと同じ「5類」へ移行することになります。厚生労働省の試算ではコロナ重症率について80歳以上では2021年7～10月時点の10.21%から2022年7～8月時点の1.86%とインフルエンザ並みになりました。5類移行により、感染者や濃厚接触者の外出自粛は要請できなくなり、社会経済活動の促進につながる一方、感染拡大を招く可能性もありますので、個人の感染対策はより一層重要になります。ただ季節性インフルエンザは季節性の言葉の通り冬季中心の状況ですが、新型コロナウイルスは変異を繰り返し春夏秋冬ということで誠に厄介です。

会員の皆様におかれましては、くれぐれもお身体にご留意願います。

今日、世界情勢が混沌としている中で、JICA海外協力隊の活動は極めて重要なことと考えます。ご支援いただいております会員の皆様は「日本のために何をできたか」についての答えを充分にお持ちです。

皆様のご支援に改めて感謝申し上げます。

(事務局長 矢部保雄)

■入会のご案内

当会では、随時会員を募集しております。是非お知り合いをご紹介下さい。申し込み書などは事務局に用意してあります。お気軽にお問い合わせください。

■年会費納入のお願い

1. 令和5年度の年会費の納入をお願いいたします。なお、令和4年度の年会費を未納入の方は、併せて納入をお願いいたします。

- (1) 個人会員：一口 3,000円
- (2) 団体会員：一口 10,000円
- (3) 法人会員：一口 20,000円
(いずれも一口以上)

2. 納入方法

- (1) 銀行名：ゆうちょ銀行
- (2) 店名：〇一九店（ゼロイチキューウ店）
- (3) 口座番号：0663484
- (4) 加入者名：埼玉国際青年を育てる会

3. JICAが発行する青年海外協力隊の月刊誌「クロスロード」を希望される方は、年間送料¥2,000円を併せて納めて下さい。

■編集後記

今回も少ない頁数で発行いたしました。少しずつ活動ができるようになってきました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

広報委員会は今回もオンラインでの編集作業になりました。コロナ禍は収束しつつあるのか、それとも現実に蓋をしているだけなのか、状況が見えにくくなったと感じているのは私だけでしょうか。

今回は、ジブチ、カンボジアからの現地レポートが届きました。気候変動や紛争の影響で世界が流動化しています。その世界の現場に身を置いていることは大変貴重な経験だと思います。多くのことを学んできてほしいと思います。ご活躍を応援しています。

(広報委員長 中島美都里)

- ・発行：埼玉国際青年を育てる会
- ・編集：広報委員会
- ・事務所：埼玉県鴻巣市下谷1576
矢部保雄
TEL・FAX 048-543-1355
E-mail: yasuo.y08@gmail.com
- ・<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~saitamakokusaiseinen/>